

令和7年度全国学力・学習状況調査 遠軽町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:8校、児童数:125人 中学校数:7校、生徒数:138人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

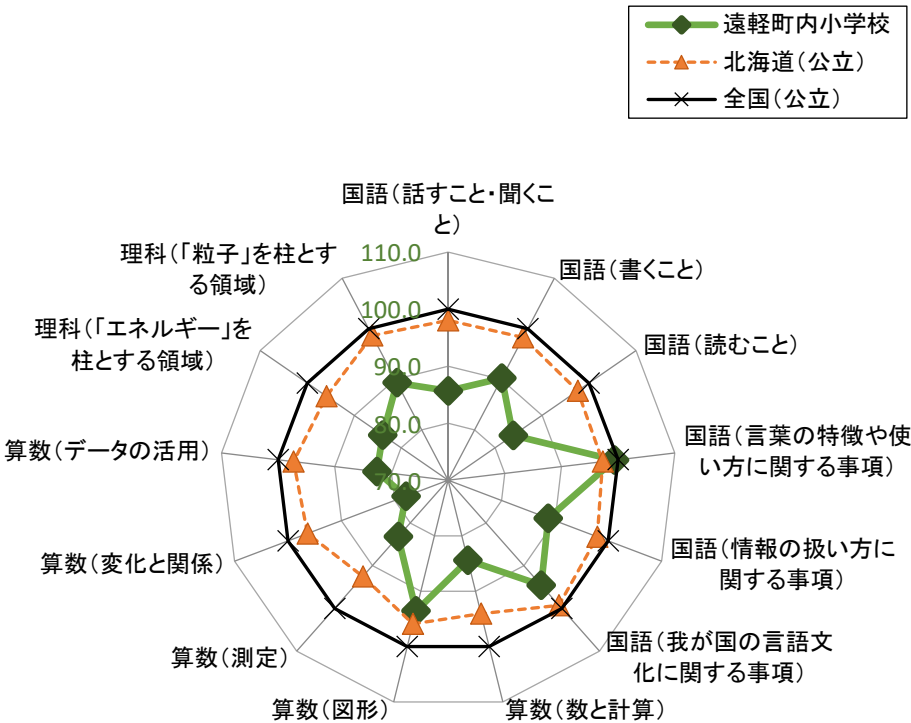
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

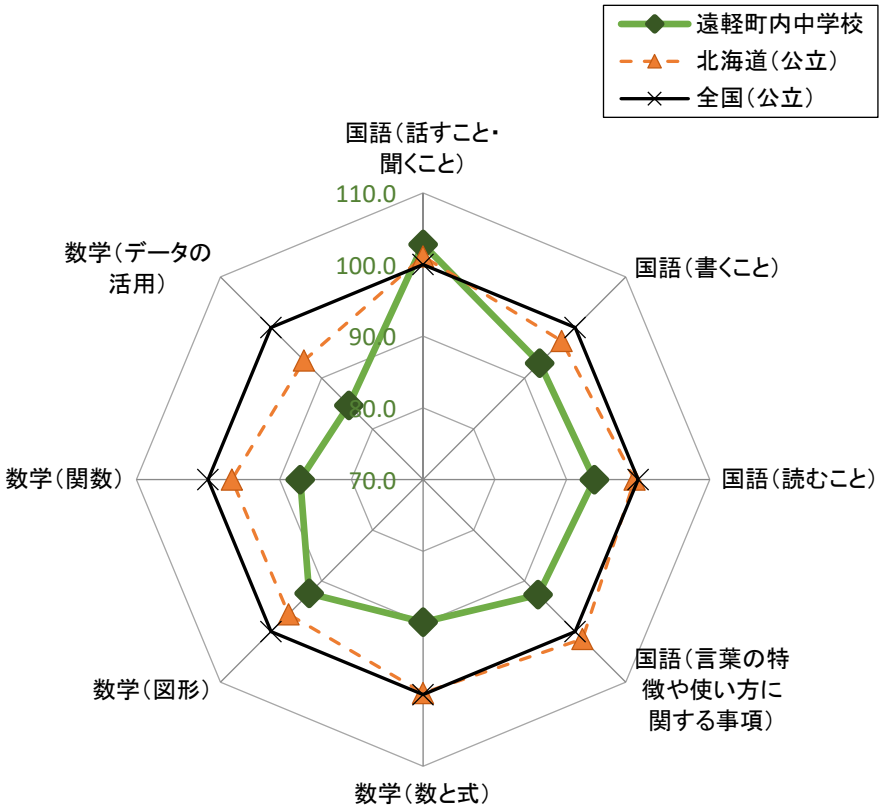
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
遠軽町	60	50	51	52	43	517
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



中学校

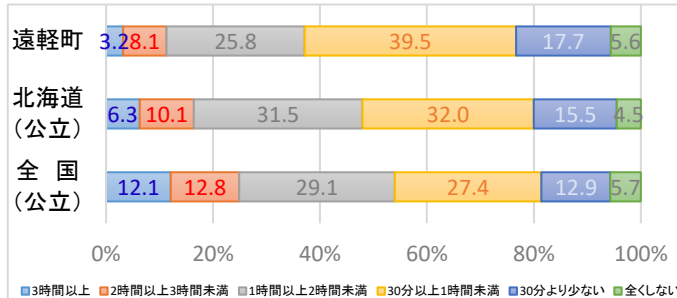


○ 質問調査の状況

※無記名等の集計値を含めないため、一部の回答では100%未満の結果となっています。

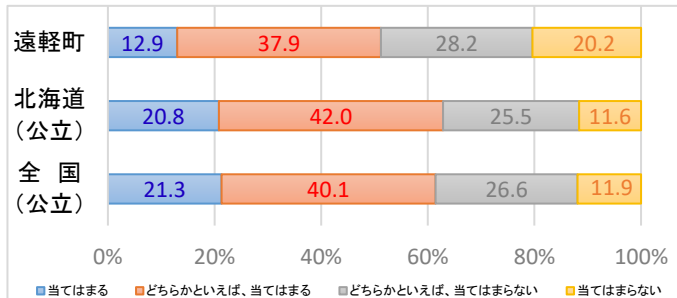
小学校 ＜児童質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



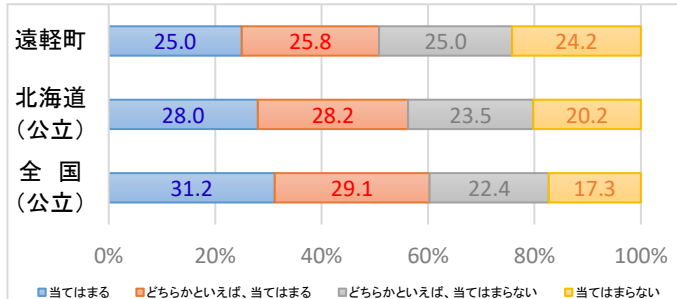
小学校 ＜児童質問＞

国語の勉強は得意ですか



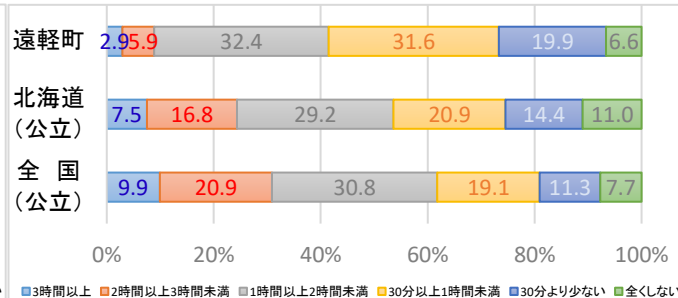
小学校 ＜児童質問＞

算数の勉強は得意ですか



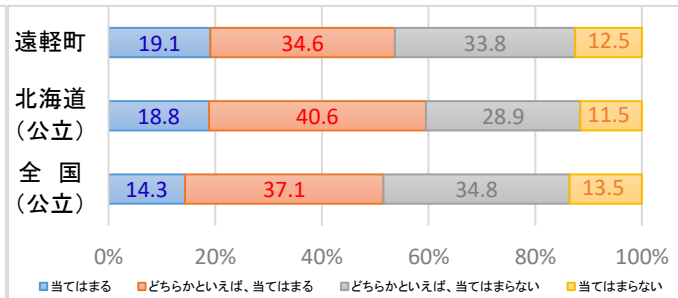
中学校 ＜生徒質問＞

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



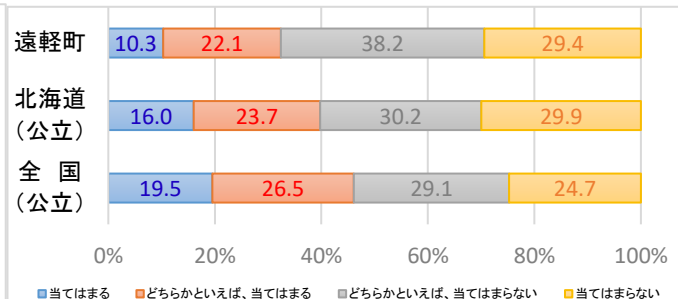
中学校 ＜生徒質問＞

国語の勉強は得意ですか



中学校 ＜生徒質問＞

数学の勉強は得意ですか



○ 調査結果の分析

- 小学校において、学校毎に課題は違うが、全体を通じて全国平均を下回る結果となっており、学力の定着に課題が見られる結果となった。個に応じた指導と家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を図る必要があると考える。また、記述式問題の正答率が低く、自分の考えをまとめて書く力を育成する必要がある。

- 中学校においては、国語の話すこと・聞くことの領域で全国平均を上回っており、学校生活で周りの考えを大切にしていけるか、高い回答となっていることから、「対話して行動する」という高いコミュニケーションをとることができる判断ができる。全ての教科において、記述式問題の正答率が低く、自分の考えをまとめて書く力を育成する必要がある。

- 小学校では国語の読むこと、算数の図形以外の全ての領域で、中学校では数学のデータの活用、関数の領域で全国・全道を大きく下回っている。状況を分析・把握をし、数学的に置き換える力をつける取組が必要である。小中学校ともに算数・数学に苦手意識があり、基礎基本の定着を図りながら、論理的思考を展開し、自分の考えを記述する指導を図る必要がある。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の基礎学力を定着する取組の推進。
- ICT端末を活用した学習支援ソフトによる家庭学習の習慣化を図る取組の推進。
- 個に応じたきめ細やかな指導を行うため、特別支援学級だけでなく普通学級に在籍している特別に支援を必要とする児童生徒に向けた特別支援教育支援員の配置。